

2023 年度・研究ユニット活動報告書

「環境と社会に関する地理学的実践」

安食和宏（代表）、森 正人、北川眞也、谷口智雅、朴 恵淑

本研究プロジェクトでは、環境と社会に関する地理学的分析と実践に関する基礎的・応用的研究を進めてきた。また地理学的な知見を基にした大学教育の方法論についての考察を行った。2023 年度の活動の概要は以下の通りである。

1. 環境に関する研究として、森は次の書評論文を発表した。Masato MORI

(2023) : "Book Review: Koji Nakashima ed. Teikoku Nihon to Shinrin: Kindai Higashi Ajia ni okeru Kankyo Hogo to Shigen Kaihatsu [The Japanese Empire and Forests: Conservation and Development of Forest Resource in Modern East Asia]." *The Korean Journal for the History of Science*, vol.45, no.2, pp. 423-428. 谷口は、滋賀県の愛知川と琵琶湖において、河川水質調査と土地利用景観に関するフィールドワークを行った。朴は、環境教育に関わる次の論稿ほかを発表した。朴恵淑 (2024) : 三重大大学の先進的環境教育と持続可能な開発目標 (SDGs) ・脱炭素 (カーボンニュートラル) 社会創生. 「三重大大学高等教育研究」, 30 号, 41-43. そして朴は、社会的活動の一部として、三重県・地方自治体・企業の 30 会員から成る三重グリーン購入ネットワーク「三重 GPN」の設立 (2023 年 4 月) に関わり、同組織の代表幹事 (会長) を務めている。

2. 社会との関わりをテーマとした研究活動として、北川は次の論稿を発表した。北川眞也

(2023) : マウリツィオ・ラッツァラート著、杉村昌昭訳『耐え難き現在に革命を！——マイノリティと諸階級が世界を変える』、法政大学出版局、2023 年 (書評)、「週刊読書人」、第 3516 号、4 頁。また安食は、紀宝町まち・ひと・しごと創生会議の会長、および桑名市指定管理者選定委員会の委員長を務め、こうしたまちづくり活動の推進における地理学研究的貢献のあり方について考察した。

3. 大学教育における実践として、2023 年 12 月に、「人文地理学学生による地理・環境研究中間報告会」を開催した。当日は、アジア・オセアニア、ヨーロッパ・地中海、アメリカ、および自然環境論研究の学生たち 9 名がオンラインで (Zoom 利用による) 公開研究発表を行い、教員達が地域を越えて合同の指導を行った。こうした実践を通して、地理学の専門的な教育効果を高める方法論について考察を深めた。

以上

人文学部研究ユニット活動報告

2024 年 3 月

研究ユニット名	ワーク・ライフ・バランスと健康経営の関係についての 実証的考察
研究ユニット代表者	岩田一哲（三重大学人文学部・教授）
共同研究者 (ユニットメンバー)	杉浦裕晃（愛知大学経済学部・教授）
研究期間（2019 年度分）	2023 年 4 月 ～ 2024 年 3 月
研究プロジェクトの概要及び 活動計画 今年度の活動報告	本ユニットは、ワーク・ライフ・バランスに関心のある杉浦教授と、企業従業員のストレスと健康経営に関心のある代表者岩田の2名で、ワーク・ライフ・バランスと健康経営の関係を検討し、研究成果を学術論文として投稿し、研究成果の公開を促進することを目的として活動を行った。 本年度については、Zoom による会議を2か月に1回程度の頻度で行い、研究論文投稿へ向けて、その内容を精査していた。また、来年度に行う予定であるアンケート調査の質問項目の充実を中心に検討を行ってきた。 これらの活動の結果として、これまでの研究結果を公表するための学術論文をまとめ、公表することができたことが挙げられる。今後は、来年度調査を見据えて、より早くアンケート調査が行えるよう、進める予定である。

研究ユニット名称：斎宮文化研究ユニット
研究ユニットのメンバーの氏名：亀田夕佳、内藤英子
今年度の活動報告： 「斎宮文化研究ユニット」は、伊勢斎宮で行われた文化的行事である『斎宮良子内親王貝合日記』を取り上げ、伊勢の地に根差した表現がいかに特長的に用いられているかという課題に取り組んできた。 今年度は、2022 年度の続きとして和歌 21 から 40 までを取り上げて考察し、注釈作業をまとめる予定でいたが、亀田の健康状態の都合で予定通りに進めることができなかった。2021 年度の研究成果である『斎宮良子内親王貝合日記』の校訂本文をもとに、以下のように注釈作業を行った。研究会は Zoom で開催した。 11 月：和歌 21～25 の注釈作業の報告を行った。(21～24 は内藤、25 は亀田) 前回に引き続き、斎宮良子内親王に向けての「予祝」の表現が認められた。新たな成果は、以下の 2 点である。 ① 「神代」など、太古の時代との繋がりが強調されている。 ② 「貝」が「雪」に喩えられている。これは、本歌合の独自の表現である。海産物の捉え方が独自に進化していると考えられる。 3 月：和歌 26～30 の注釈作業の報告を行う予定（26 日）。 本ユニットで研究をしてきたことによって、『斎宮良子内親王貝合日記』の独自性が徐々にではあるが、確実に明確になってきている。来年度は考察を発展させるとともに、引き続き注釈作業を行い、注釈として完成させる予定である。

2024 年 3 月

三重大学人文学部 ブランド戦略研究ユニット 2023 年度活動報告

ユニット代表 熊谷健(法律経済学科)

1. ユニット概要

「研究概要」

様々な業界においてコモディティ化が深刻となる環境においては、確固としたブランドの下で製品属性以外の面からも評価を高め事業を展開することが望まれます。かかる視点から、当ユニットは学外の研究者と協力しながらブランド戦略について研究しています。

「ユニットメンバー」

代表)三重大学人文学部法律経済学科 教授 熊谷健

早稲田大学大学院経営管理研究科 教授 長沢伸也

共立女子大学家政学部 教授 古川貴雄

早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センター 招聘研究員 杉本香七

2. 2023 年度活動報告

当ユニットにおける議論を踏まえ、ユニットメンバーより以下の研究成果が発表されました。

「著書」

- 長沢伸也・若林靖永・富田健司・岡本哲弥・熊谷健・久保亮一・小林宏気・李炅泰・入澤裕介・余田拓郎・馬場武・森尾昭文・広崎心・徐彬如・増谷博昭 (2023) 商品開発・管理の挑戦:デザイン, ラグジュアリー, ブランド, 社会課題, 晃洋書房
- 長沢伸也・熊谷健・大津真一・竹村和久・劉放・高山誠・北浦さおり・熊谷健・熊王康宏・杉本香七・白坂剛・下村尚登・大友貴史・小澤賢司・坂部裕美子 (2023) 感性価値を高める商品開発とブランド戦略: 感性商品開発の理論から事例まで, 晃洋書房

「論文・論説等」

- 古川貴雄・安星奈 (2024) デジタルで衣服をつくる, 感性工学, Vol. 22、No. 1 (印刷中)
- 古川 貴雄・Olga・安星奈・甲斐咲帆・森薫 (2024), AI によってファッションデザインはシンギュラリティに到達するのか?, 感性工学, Vol. 22, No. 1 (印刷中)
- Kumagai, K. (2023) Does the wealthy class encourage ESG? Role of sustainability involvement and self-congruence with corporate sustainability initiatives on brand trust formation, Proceedings of The Mystique of Luxury Brands Conference 2023.
- Kumagai, K. (2023) Exploring the role of brand-sustainability-self-congruence on consumers' evaluation of luxury brands. Asia Pacific Journal of Marketing and Logistics, Vol. 35, No.8, pp. 1951-1969.
- Caitlin, F., Kumagai, K., and Nagasawa, S. (2023) The Effect of Design

Extravagance on Consumers' Perceived Greenwashing: Case of Luxury vs. Affordable, Proceedings of Going Green-Eco Design 2023.

- Kumagai, K. and Nagasawa, S. (2023) Effects of Brand Luxury on Consumer Psychology toward Sustainable Plastic Apparel: A Short Review, Journal of Product Development and Management, Vol.20, No. 1, pp. 21-34.
- Caitlin, F., Kumagai, K. and Nagasawa, S. (2023) Design extravagance and perceived greenwashing in luxury brands. Proceedings of 29th International Conference on Recent Advances in Retailing and Consumer Science, pp.39-43.
- Kumagai, K. (2023) Strategic planning process of sustainability initiatives: Effects of brand-sustainability-self-congruence. Proceedings of Global Marketing Conference 2023.
- 古川貴雄・甲斐咲帆 (2023) ウェルビーイングを向上させる能動的被服, 感性工学, Vol. 21, No. 5, pp. 215-220.

●

「学会発表」

- 古川貴雄・甲斐咲帆・安星奈 (2024) ファッション産業における AI のインパクトーデータ駆動型コンピュータビジョンの応用ー, 第 19 回日本感性工学会春季大会.
- 伊藤隆文・長沢伸也 (2024) ハイパー・ラグジュアリー戦略に関する研究ー超高額品がビジネスとして成立する要件の仮説検証と有効性ー, 商品開発・管理学会第 41 回全国大会.
- 熊谷健 (2024) ブランド戦略の理論と事例〜競争優位獲得へのヒント〜 みえ産学官技術連携研究会地域資源研究会 第 10 回窯業技術検討会.
- 熊谷健 (2023) ブランドパーソナリティに基づくサステナビリティ施策の検討: 自己概念調和理論の視座から, 日本商業学会第 13 回全国研究報告.
- 池本和博・長沢伸也 (2023) オムニチャネル消費時代におけるラグジュアリーブランドの実店舗の機能はどうあるべきか, 商品開発・管理学会第 40 回全国大会.
- 熊谷健 (2023) 富裕層は ESG に貢献するか: ブランドの信頼形成におけるサステナビリティ関与と自己概念調和の役割, 商品開発・管理学会第 40 回全国大会.
- 長沢伸也・大津真一・竹村和久・劉放・高山誠・熊谷健・杉本香七・北浦さおり・白坂剛・下村尚登・大友貴史・小澤賢司・坂部裕美子・熊王康宏 (2023) 感性価値を高める商品開発とブランド戦略ー感性商品開発の理論から事例までー, 日本感性工学会感性商品研究部会第 77 回研究会.
- 安星奈・氏平千暁・甲斐咲帆・古川貴雄 (2023). デジタルファッションデザイン教育におけるクリエイティビティの涵養, 第 25 回日本感性工学会大会.
- 古川貴雄・石内順子・氏平千暁・甲斐咲帆, 森薫 (2023) 動的に変化する視覚パターンのデザインと感情表現, 第 25 回日本感性工学会大会.

「受賞」

- Kumagai, K. (2023) JGSMS Best Reviewer Award 2023. Journal of Global Scholars of Marketing Science, Routledge/Taylor & Francis.

3. 研究ユニットの終了

一連の研究活動が区切りを迎えたことから、2024 年 3 月をもって当ユニットの活動は終了致します。関係者の皆様からのこれまでのご支援について、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

以上